

共通テスト出願について

9月15日(火)から10月2日(金)まで、共通テストの出願期間でした。昨年からWeb出願になり、学校・教員側はいろいろ戸惑うことが多かったですが、受験生からすると、これが最初(で最後?)の出願なので、指示通りに進めていけばスムーズに出願は終わります。とはいえ、昨年、今年と2回のWeb出願を経験してみて、気になるポイントがあったので、1・2年生にも紹介しておきます(また1年後のことなので、忘れられてしまいますが)

まずは、文系の理科についてです。文系で理科の科目を受験する場合、多くが基礎科目の2科目を受験します。これは、基礎2科目を1時間で解くというものなので、共通テストでは1科目扱いです。よって、普通の文系型の人は、地歴公民2科目、理科1科目で登録するのが正解です。これを勘違いして、基礎科目2つだから、理科は2科目だとして登録してしまう人が多いのです。さらにややこしいのが、大学入試センターとしては、地歴公民2科目、理科2科目で受験しても何の問題もないので、センター側から指摘されることはありません。高校側でチェックできるので、地歴公民2科目、理科2科目登録している生徒には、一度確認するようにしています。

まれにあるのが顔写真です。どういう理由かはわかりませんが、スマホで撮った顔写真が登録できなかった、という話を聞きます。おそらく一番多いのは、背景が無地でなかった、というものだと思います。また、証明写真を撮影したものもダメですね(例えば学生証の写真をスマホで撮影したものはダメです)。

それから、受験料の支払いが後回しになってしまう人も多いです。さすがにこれまで支払いそびれて受験できなかったという事例に出会ったことはないですが、ぎりぎりになって慌てて支払った例はたくさんあります。何でもそうですが、締切当日になって慌てることのないようにしてもらいたいものです。

環境系の学部・学科について

主に理系で、特に化学・生物に力を入れている人や、文系でも、少し実学的な分野に興味がある人に検討してもらいたい学問に、「環境系」の分野があります。そもそも、環境という言葉にどういうイメージを持っていますか？自然科学的なアプローチだと「自然環境」や「生態系」が考えられますし、文系的なアプローチだと「環境問題」「住環境」といった社会問題がイメージされると思います。具体的な学問を当てはめると、水質汚染や大気汚染なら「化学」の分野ですし、地球温暖化なら「気象学」、生態系なら「生物学」になりますし、環境問題を扱うなら、「法学」「国際法」「国際関係」、企業活動に注目するなら、「経済学」「経営学」も関係してきます。

このように、「環境」というと、かなり幅が広いこともあり、大学の学部や学科に「環境」と付いていても、具体的にどんなことを勉強するのか、将来はどういう職業につくのか、あまりイメージがわからないかもしれません。実際、大学によって、環境のどこに重点を置いているのかもわかりにくいですね。今回、「環境系」の大学について、少し考えてみました。

そもそも、「環境系」の学部・学科について考えるきっかけは、**静岡県立大学の食品栄養科学部の環境生命科学科**の先生が来校して、環境生命科学科の紹介をしてくれたことによります。どうしても、食品栄養科学部というと、管理栄養士や食品加工のイメージばかりだったので、環境生命科学科のイメージがなかったのですが、話を聞いてみると、環境分析や、環境工学や、生態系なども学ぶことができる、割としっかりした理系の環境系の学科だということがわかりました。その先生によると、化学や生物に興味がある人には是非来て欲しいそうです。

その話を聞いて、そうか、「環境」という切り口での学部選びもあるな、と思い、特に「環境」と名の付く大学をざっと調べてみました。特に環境系の学部としてしっかりしているのが**長崎大学の環境科学部**です。この学部の最大の特徴は理系・文系どちらからでも進学でき、どちらの分野もしっかり学べるオールラウンドなところです。もう少し近いところでは、**滋賀県立大学の環境科学部**は、デザイン・建築系の学科もあり、農業系・社会システム系の学科もあり、こちらかなり総合的に環境を学ぶ学部です。**京都府立大学**にも**環境科学部**があり、こちらは森林系とデザイン・建築系の学科があり、政策的な学科はあまり目立ちません。こうやって見ると、同じ「環境科学部」と言っても、大学ごとに大きく特徴が異なることがよく分かります。

最近では化学物質による**公害**だけでなく、**SDGs**をはじめとした社会の動きや、**異常気象**のような自然現象まで、環境に対する注目はますます高まっています。「環境」をキーワードに、学問分野や文系・理系をまたいだ学びに取り組んでみるのも面白いと思いますよ。